

ペーパークラフト ～切組灯籠～

切組灯籠は、錦絵の中に描かれた人物や建物などの部品を切り抜いて芝居の一場面などを組み立てたものです。夕涼みの床机の上などで蠟燭を灯して飾り、その出来栄を楽しみました。江戸・大坂・京で盛んに行われ、江戸時代から大正時代頃まで作られていました。関西では立版古^{たてばんこ}の名で親しまれています。

原画は浮世絵師が描きましたが、絵師としての腕前以外にも、限られた紙面の中に各部分を無駄なく配置する技量も必要とされました。

元来組み立てて遊んだ後は捨てられてしまう消耗品であったため、現存する資料の少ない貴重なものです。

切組灯籠「大坂御陣雪中大合戦」(財)松井文庫所蔵

明治27年(1894)7月、東京浅草の牧金之助が出版された5枚セットの切組灯籠。絵師は不明です。大坂冬の陣の一場面を描いたものですが、実際に演じられた記録はなく、歌舞伎で上演されたと見立てて、当時のトップスター「団菊左」(9代目市川団十郎、5代目尾上菊五郎、初代市川左団次)それぞれに役名が記されています。



↓ 図中には簡単な完成図も描かれています





市川団十郎(徳川秀忠役)



尾上菊五郎(木村長門守役)



市川左団次(後藤又兵衛役)



実際に組み上げるとこのようになります。臨場感あふれる戦いの様子が再現できました。